

1. 教育の責任

・国際看護学部の教育理念である、地球を多様な地域と捉え、そこに暮らす様々な人々の歴史的背景や価値観、文化、生活様式を理解し、それに伴う健康課題や医療、看護の特徴に対する理解を深め、多様性を受容し、其々の文化に沿った看護が実践できる看護師教育を実践している。

2. 教育の理念

・日本のグローバル社会に対応できる看護師を養成するために、日本人と共に暮らす多様な人々がもつ歴史的背景や価値観、文化、生活様式などを理解し、各個人が求める文化に沿った看護が提供できる看護師を養成している。そのため、既にグローバル社会となっている阪神地区において、定住外国人や訪日外国人、在外日本人に加えて、移民、難民問題、超少子高齢化社会や独居老人への健康支援、および低所得労働者層の健康課題とコミュニティレベルでの支援についても理解を深める教育と実習を展開している。

3. 教育の方法

・講義では地球を一つの多様な地域としてとらえる視座を培い、それぞれの文化に沿った健康課題や医療、看護があることを理解する講義内容としている。演習ではグローバルコミュニケーション力を培うためネイティブ教員による少人数制の英語コミュニケーションクラスを設けている。また、国際看護演習では医療英語を用いた外来での対応や診療の介助、入院時の対応が英語で行える演習を実施している。くわえて、やさしい日本語や翻訳機を駆使して、多様な人々への医療や看護の説明や会話を行うために、バーバル・ノンバーバルのコミュニケーションツールの使用方法についても学修する。

・実習では、多様性がもつ歴史的・文化的背景や価値観をより理解する機会とする実習としているために、地域における定住外国人支援センターや多言語センターまたは JICA や検疫所、矯正施設など、日本における医療や看護、感染症対策の実践を展開している幅広い施設を利用して、看護活動の学びを更に深める機会としている。

・教育方法としては対面を中心に行っているが、諸外国の実習施設からの講義では遠隔授業を取り入れ、現地のリアルタイムで情報が得られる工夫を行っている。中でも演習では、海外での看護職として勤務した経験のある教員や多国籍の教員により、医療英語を用いた演習を行い、卒業後外来での対応や翻訳機、優しい日本語、イラストなど、多種多様なコミュニケーションツールを駆使して対象のニーズを把握する知識や技術を学修できる内容としている。

・多様性のある文化への理解を深めるために、国際看護学実習Ⅲは全員学術交流協定を締結したアセアン諸国を中心とした看護系大学や病院での臨地実習を行っている。また、国内外の看護系大学や病院において、看護学を深める実習を展開し、それぞれの国の歴史や文化、環境によって看護や医療の工夫があることへの理解を促している。この他、遠隔による交流会や海外医療支援の具体的なデモンストレーションを取り入れた実習展開とする工夫も行っている。

4. 教育の成果

・学生は日本人以外の定住外国人や訪日外国人または在外日本人の医療や看護の実態を理解し、課題への取り組みについても考察を深めている。また、学術交流協定を締結している看護系大学の学生との交流なども活発に行い、諸外国の現状や今後の日本の医療や看護での取り組みについても意見交換を行っている。英語民間試験も受験し、英語の専門的な医学用語の習得や、実際の臨床で使用できる英語を用いた会話への取り組みが促されている。この他、実習が終了しても、施設によってはボランティアで関わるなど交流が継続し、地域に暮らす人々を看護する必要性の理解し、実践している学生達も大勢育っている。

・隣地で活躍する卒業生達からは、ほぼ全員が、多様な人々が来院した際にはコミュニケーションツールを駆使して対応ができ、それが本学部の教育評価の一つであると考えている。

・国際看護学実習Ⅲによる海外実習に関する実習記録の内容より、多様性への理解を深め、それぞれの文化に考慮した看護の必要性を学んでいることなど、実習記録を通じた教育目標の達成を把握している。

ティーチング・ポートフォリオ

大学名：大手前大学 所属：国際看護学部 名前：鈴木 江三子 作成日：2025年11月12日

5. 改善への努力と今後の目標

・国際看護演習 I からIVまでと、Practicum English をはじめとする英語の科目の連携を強化し、54 コマで学ぶ内容をもっと綿密に計画をたてて、英語によるコミュニケーションだけでなく、医療英語検定や TOEIC の取得に向けた講義内容とする。また、医療英語を学ぶ国際看護演習では、1 人の教員が 10 人程度を受け持つロールプレイや GW を実施することで、臨床で使用できる英会話をアウトプットすることができるようになってきている。今後は、より一層、学生からの発話の機会を増やすことで、スピーキング力を促す。国際看護学実習については、国内外の多様な地域の施設において、学生やスタッフとの交流を活発化させていき、国際人としてのマナーを学ぶ機会とする。

【添付資料】

ティーチング・ポートフォリオ

大学名：大手前大学 所属：国際看護学研究科 名前：鈴木 江三子 作成日：2025年11月13日

1. 教育の責任

・日本だけでなくグローバル社会となっている諸外国において、それぞれの文化に沿ったよりよい看護実践に向けた方法を探求するために、看護専門職としての実践力、研究力に加えて、国際力を身につけて、健康課題を明らかにし、対象者が求める看護やケア、支援の在り方を考察し、其々の文化に沿った看護が実践できる研究的視点をもった看護専門職を育成している。

2. 教育の理念

・国内外のグローバル社会に内在する健康課題を明らかにし、そこに暮らす人々の健康支援が行えるプロフェッショナルな看護専門職を育成する。そのために、既にグローバル社会となっている日本で、多様性のある人々と共に暮らす日本人以外に、多様な歴史や文化、価値観を有する定住外国人や訪日外国人、移民、難民問題、または所在不明の子ども達や超少子高齢化社会の独居老人の健康課題等、顕在化していない健康課題を明らかにし、それぞれのニーズにあった看護や支援の在り方を考察するための研究力、実践力と国際力を培う教育を展開している。

3. 教育の方法

・講義では国際力として地球を一つの多様な地域としてとらえる視座を培うために、最新のデータを用いた人々の健康課題や疾病構造、健康に影響を与える諸要因などを提示し、主観ではなくデータを用いて科学的根拠にもとづいた客観性と論理性を学修する講義内容としている。

・研究力の育成としては質的・量的研究手法を教示し、自らの関心がある研究課題に沿った研究手法を使って調査が行える知識と研究手法を学ぶ。また、先行研究の検討やSR研究の理解も深め、文献検索時の研究の質を問う姿勢も促す。

・実践力の強化としては、保健師・助産師・看護師の専門職による実践の情報共有を行い、それぞれが実践の中で考えた課題について文献検索をもとにグループディスカッションを行い、推奨されるケアに関する意見交換を行い、看護の深奥を探求する。

・研究演習では明らかにしたい研究課題に沿って国内外の文献検索を行い、研究の社会的意義や学術的価値について考察を深め、オリジナリティのある研究課題の抽出を行う。

・特別研究では、研究課題の明確化と調査方法の選定、分析方法、倫理的配慮、倫理申請書類の作成、調査の実施、分析、結果の提示方法と論文作成および論文の体裁について学修し、研究のプロセスを修得するための指導を行う。

・保健師、助産師の養成については、上記内容を踏まえたうえで、さらに国家試験受験科目を履修し、より専門性の高い知識を学修する。また、各専門領域の実習では、国内外の実習施設において、日本の文化以外の多様性をもつ歴史的・文化的背景や価値観をより理解する機会としている。

・教示方法は対面を中心に行っているが、看護実践科学分野においては社会人の院生も多いことから、共通科目の選択科目についての5科目（10単位）は、遠隔と対面によるハイブリッドでの講義展開としている。また、諸外国の実習施設からの講義では遠隔授業を取り入れ、現地のリアルタイムで情報が得られる工夫を行っている。この他、演習では、実習施設の専門職による技術演習を実施し、実際の実習施設での実習が学びの多いものであるような工夫をしている。

・この他、院生のキャリア形成を促すために、グローバルキャリア演習ではJICA、検疫所、矯正施設、議員秘書、専門職団体におけるインターンシップなどを取り入れ、看護専門職としての幅広い活動に出会える機会を設けている。

4. 教育の成果

・ほぼ全員の院生は修了までの間に、国内外の学会において研究成果を報告している。

・修了後は、看護系大学の教員、行政への就職、医療機関の管理職、博士課程に進学など、培った国際力、研究力、実践力をもとに、全員がキャリアアップを図っている。

ティーチング・ポートフォリオ

大学名：大手前大学 所属：国際看護学研究科 名前：鈴木 江三子 作成日：2025年11月13日

5. 改善への努力と今後の目標

・外国人特別入試による院生以外に、EPA看護師や初めて論文を作成する院生に対して、各院生にあった指導方法や日英いずれかの論文作成が、どの専門領域でも行えるように、教員全員の指導力と語学力を強化する。

【添付資料】